

令和元年6月24日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03679

研究課題名（和文）会計研究と組織理論の接合を通じた計算実践の解明

研究課題名（英文）An Analysis of Calculating Practices through Connecting Accounting Research and Organizational Theory

研究代表者

國部 克彦（KOKUBU, Katsuhiko）

神戸大学・経営学研究科・教授

研究者番号：70225407

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、計算は現代社会を構成している主要な実践であることを、会計理論と組織理論の接合を通して明らかにした。具体的には、金融業、企業経営、地球環境保護の3つの領域を設定して、それぞれの領域での計算実践の意義を分析した。その結果、計算は中立的な実践ではなく、社会や組織を構成する能動的な実践であることが明らかになった。このような実践を制御するためには、これまでの経済学的なアプローチは有効ではなく、倫理の構築が重要であることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

計算実践の研究を通じて、近接領域でありながら、相互交流の乏しかった会計学と経営学の間の一つの共通の学術研究領域を構築することができた。この分野の価値評価研究としてさらなる発展が期待できる。実践的な意義としては、計算実践が中立的な実践ではなく、社会構成的な実践であることを、3つの分野で明らかにしたことで、計算を規定している仕組みに社会的関心が向かうことが期待できる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we applied accounting theory and organization theory to analyze calculation practices. We analyzed the significance of calculation practices in financial industries, business management and global environment protection. As a result, it became clear that calculation is not a neutral practice but an active practice that constitutes society and organization. In order to control such practice, the traditional economic approach is not effective, but that the construction of ethics is important.

研究分野：会計学，社会環境会計，経営倫理

キーワード：会計 計算 組織 実践 価値 評価 倫理

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

リーマンショック直後に、Chris Chapman らは「最近の金融危機から我々が学んだ唯一のことは、現代社会を支えている計算実践のより深い理解が緊急に必要とされていることである」(Chapman, et al., 2009)と警鐘を鳴らした。高度に複雑化した経済社会では、多くの計算実践がブラックボックス化しており、それが現代社会のリスクを高めている。

しかし、この問題を解明するためには、現在の会計理論では対応できない。既存の会計理論では計算の方法は説明できても、計算が人間を経て実践としてどのように動くのかが解明できないからである。この点について、LSE の Peter Miller と Michael Power は、The Academy of Management Annals (Vol.7, No.1) 誌において、「会計化、組織化、そして経済化—会計研究と組織理論の接合」を発表し、最新の組織理論を会計研究に接合することで、計算実践に対するより深い分析が可能になることを示した。

本研究は、この Peter Miller と Michael Power の提言をさらに発展させ、会計研究と組織理論の接合を通じて、計算実践を解明する理論的枠組みを構築するとともに、経験的研究を通して新しい計算倫理の構築を目指すものである。

### 2. 研究の目的

現代の経済社会は高度に組織化された多数の計算実践から構成されている。しかし、これらの計算実践をそれが埋め込まれているコンテキストから分析する理論・経験的研究は十分でない。

本研究では、計算実践に焦点を合わせて、アクターネットワーク理論・実践理論・制度派組織論を参照することで、計算実践を解明するための理論枠組みを整備し、経験的研究として、金融の計算実践、企業経営の計算実践、地球環境保護の計算実践を取り上げ、倫理構築研究として、ブラックボックス化された計算実践を解明し、計算に携わる倫理を問いなおすことによって、新しい公共性の構築を目指す。

### 3. 研究の方法

本研究は、上記の研究目的にしたがって、金融の計算実践(サブリーダー澤邊)、企業経営の計算実践(サブリーダー松嶋)、地球環境保護の計算実践(サブリーダー國部)の3つのチームに分け、それぞれの領域で理論研究、経験的研究、理論的研究を行った。

研究成果については、LSE の Peter Miller 教授を最終年度に招聘し、各チームの研究成果について討議した。

### 4. 研究成果

研究成果については、金融の計算実践、企業経営の計算実践、地球環境保護の計算実践の3つに分けて記述する。

金融業の計算実践では、第一に、金融機関の再生支援活動について、実践理論を援用し、一般抽象的な普遍的概念が個別具体的な固有実践と目的論の次元と感情論の次元が絡み合いながら意義づけられていることを明らかにした。第二に、地域中核企業・サプライヤー・金融機関・税理士事務所・大学で構成される地域ビジネス・エコシステムにおける計算実践の研究も行い、計算が個別主体の枠を超えて行われることで、それぞれの生存能力を高めているメカニズムを明らかにした。この研究は、今治造船業におけるビジネス・エコシステムを対象に調査を進めたものである。第三に、IoT などテクノロジーの発達コストマネジメント実践に及ぼす影響について調査を進め、製造企業の現場データを IoT で取得しリアルタイム概算原価を計算する意義を究明した。

企業経営の計算実践の研究では、第一に、企業経営に関わる様々な価値評価実践を捉える分析枠組みの整備と経験的研究を行ってきた。具体的には、アクターネットワーク理論を援用し日本企業の採用革新の事例、制度論を援用した組織不正の合理的生成に関するメカニズム、官僚制の形式合理性がイノベーションを算出させる遂行的プロセス、さらには装置概念を援用して製造業の取引実践や科学技術実践などを分析してきた。第二に、これらの多様な価値評価実践を捉える新たな分析枠組みとして、物質性と空間性に関する理論的基盤の整備を行った。

地球環境保護の計算実践の研究では、第一に MFCA とイノベーションの関係を探求して計算実践の役割を明らかにした。そこでは MFCA 情報が銘刻として機能するプロセスが明らかにされた。第二に、環境経営における KPI の役割を分析して複数評価原理の方法を提示した。複数評価原理は、複数の評価指標を独立に利用することが肝要で、一つの指標に統合すべきでないとする結論を得た。第三に、計算実践と倫理の相互関係を分析して、CSR 経営に応用できる新しい責任経営に関する理論を構築した。ここでの責任とは、有限責任のアカウンタビリティではなく、無限責任としてのレスポンシビリティであり、この無限責任の導入が計算実践における倫理構築に必須であることを論証した。

全体の研究成果としては、2017年に國部、澤邊、松嶋の共編著として著書を出版し、3年間の研究成果については、Peter Miller の寄稿論文とともに日本情報経営学会の特集号として公表する準備を進めている。また、各サブテーマの内容に関しても、国内外のジャーナルへの投稿を実施もしくは予定している。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計37件)

- 柘 紫乃 (2019) 投下資本回収額の最大化と回収期間の短期化, 経営情報科学, 41-1, 印刷中, 査読無.
- 宮地 晃輔 (2019) 長崎県造船企業の経営と競争力, 長崎県立大学経営学部編集委員会(編)『シリーズ大学と地域・これからのビジネスと地域』, pp.130-141, 査読無.
- 松嶋 登 (2019) 空間マネジメントへの誘い, 経済学・経営学 学習のために(国民経済雑誌別冊), 平成31年度前期号, pp.47-60, 査読無.
- Kuwada, K. and Matsushima, N. (2019) Apparatus guiding the science based innovation: The new materialistic approach for valuation practices around the synchrotron radiation facility, 神戸大学大学院経営学研究科ディスカッション・ペーパー, 2019・9, pp.1-23, 査読無.
- 宮地 晃輔 (2018) 株式会社亀山電機の経営改革と管理会計-外部コミュニケーションツールとしてのバランスト・スコアカード(BSC)-, 会計, 194-4, pp.365-374, 査読無.
- 宮地 晃輔 (2018) BSC による外部とのコミュニケーション, 地域中小製造企業の管理会計・原価計算活用実態解明と経営改善への接続に関する研究(日本管理会計学会スタディ・グループ), pp.36-51, 査読無.
- 宮地 晃輔 (2018) 地域工場団地企業の競争力向上のための企業人材に対する原価計算スキル改善取組の意義, 平岡 祥孝・宮地 晃輔(編)『それでも大学が必要』と言われるために[増補版]-実践教育と地方創生への戦略-』, pp.250-260, 査読無.
- 篠原 阿紀, 天王寺谷 達将, 東田 明 (2018) マテリアルフローコスト会計の変化に関する研究-IMUのフローコスト会計と日本の報告書分析を通じて-, 環境経営のためのマネジメント・コントロール・システムに関する研究(日本社会関連会計学会スタディ・グループ最終報告書), pp.61-91, 査読無.
- 松嶋 登, 矢寺 顕行, 浦野 充洋, 吉野 直人, 貴島 耕平, 中原 翔, 桑田 敬太郎, 高山 直 (2018) 社会物質性のメタ理論, 神戸大学大学院経営学研究科ディスカッション・ペーパー, 2018・13, pp.1-39, 査読無.
- 福本 俊樹, 中原 翔, 西村 知晃, 金井 壽宏 (2018) 使用するレジリエンス研究:「形状記憶物質」「治療」「物語」としてのレジリエンス, 日本情報経営学会誌, 37-3, pp.15-26, 査読無.
- 國部 克彦 (2018) 会計と正義を論じる理論的根拠-デリダ、ラトゥール/カロン、ロールズの位置づけ-, 国民経済雑誌, 217-5, pp.1-23, 査読無.
- 野口 豊嗣, 國部 克彦 (2018) 対抗者としてのステークホルダーエンゲージメントの理論的根拠とその可能性, 国民経済雑誌, 217-6, pp.1-17, 査読無.
- Islam, M.T. and Kokubu, K. (2018) Corporate Social Reporting and Legitimacy in Banking: A Longitudinal Study in The Developing Country, Social Responsibility Journal, 14, pp.159-179, 査読有.  
10.1108/SRJ-11-2016-0202
- 矢寺 顕行 (2018) 組織における人材の価値と評価の実践に関する考察, 同志社商学, 69-6, pp.1105-1120, 査読無.  
<https://doors.doshisha.ac.jp/duar/repository/ir/26072/017069060008.pdf>
- 上西 聡子 (2018) デューイ「評価の理論」に含まれた価値評価の原理: 価値評価に関する研究の方向性の展望, 九州産業大学経営学論集, 28-4, pp.11-21, 査読無.  
[http://repository.kyusan-u.ac.jp/dspace/bitstream/11178/7760/1/02\\_Uenishi.pdf](http://repository.kyusan-u.ac.jp/dspace/bitstream/11178/7760/1/02_Uenishi.pdf)
- 國部 克彦 (2017) 環境経営と責任-責任の無限性をめぐって-, サステナブル・マネジメント, 16, pp.23-30, 査読有.
- 國部 克彦 (2017) 会計と正義-近くて遠い関係-, 税経通信, 72-7, pp.149-155, 査読有.
- 松嶋 登, 桑田敬太郎 (2017) イノベーション・エコシステムのデザイン, ビジネス・インサイト(特集 イノベーション・エコシステムのデザイン), 25-4, pp.2-9, 査読無.
- 桑田敬太郎, 松嶋 登 (2017) イノベーションの社会物質性:「技術」と「組織」から差異化した異種混合の実践, 神戸大学大学院経営学研究科ディスカッション・ペーパー, 2017・23, pp.1-12, 査読無.
- 貴島 耕平, 福本 俊樹, 松嶋 登 (2017) 組織行動論の本流を見極める: 人間関係論、組織開発、アクション・サイエンス, 国民経済雑誌, 216-2, pp.31-55, 査読無.
- ① 松嶋 登 (2017) 経営学における物質性概念の行方: 社会構成主義の陥穽を超えて, 経営学史学会年報第二十四輯 経営学史研究の興亡, 文眞堂, pp.48-59, 査読無.
- ② 松嶋 登 (2017) 制度ロジックの組織化と制度としての組織: 制度的企業家後記 日本経営学会編, 経営学論集, 87, pp.60-69, 査読無.
- ③ 貴島 耕平, 福本 俊樹, 松嶋 登 (2017) 組織行動論の学問的アイデンティティ: 見過ごされてきた新旧人間関係論のインプリケーション, 神戸大学大学院経営学研究科ディスカッション・ペーパー, 2017・13, pp.1-12, 査読無.
- ④ 東田 明, 篠原 阿紀, 天王寺谷 達将 (2017) マテリアルフローコスト会計の変化に関する研究-IMUのフローコスト会計と日本の報告書分析を通じて-, 環境経営のためのマネジメ

ント・コントロール・システムに関する研究(日本社会関連会計研究学会スタディ・グループ 中間報告書), pp.30-55, 査読無.

- ②⑤ 國部 克彦 (2017) 計算が創る市場・組織・社会, 國部 克彦・澤邊 紀生・松嶋 登(編著) 『計算と経営実践 -経営学と会計学の邂逅』, pp.7-42, 査読無.
- ②⑥ 澤邊 紀生 (2017) 勘定と感情, 國部 克彦・澤邊 紀生・松嶋 登(編著) 『計算と経営実践 -経営学と会計学の邂逅』, pp.43-62, 査読無.
- ②⑦ 松嶋 登, 早坂 啓 (2017) 市場取引の神々, 國部 克彦・澤邊 紀生・松嶋 登(編著) 『計算と経営実践 -経営学と会計学の邂逅』, pp.63-82, 査読無.
- ②⑧ 北田 皓嗣 (2017) 計算の銘刻としての会計, 國部 克彦・澤邊 紀生・松嶋 登(編著) 『計算と経営実践 -経営学と会計学の邂逅』, pp.83-98, 査読無.
- ②⑨ 天王寺谷 達将 (2017) イノベーションの駆動と会計計算, 國部 克彦・澤邊 紀生・松嶋 登(編著) 『計算と経営実践 -経営学と会計学の邂逅』, pp.99-116, 査読無.
- ③⑩ 東田 明, 國部 克彦, 篠原 阿紀 (2017) 可視性の創造と変容, 國部 克彦・澤邊 紀生・松嶋 登(編著) 『計算と経営実践 -経営学と会計学の邂逅』, pp.117-136, 査読無.
- ③⑪ 矢寺 顕行 (2017) 人材を計算可能にするアレンジメント, 國部 克彦・澤邊 紀生・松嶋 登(編著) 『計算と経営実践 -経営学と会計学の邂逅』, pp.137-158, 査読無.
- ③⑫ 上西 聡子, 松嶋 登, 早坂 啓 (2017) 企業間取引の物質的实践, 國部 克彦・澤邊 紀生・松嶋 登(編著) 『計算と経営実践 -経営学と会計学の邂逅』, pp.203-228, 査読無.
- ③⑬ 矢寺 顕行 (2017) コーポレート・アントレプレナー: 社内からアントレプレナーを 生み出すには何が必要なのか?, 山田 幸三・江島 由裕(編著) 『1からのアントレプレナーシップ』, pp. 79-94, 査読無.
- ③⑭ 上西 聡子 (2017) 製造業における企業間取引のコントロール: 計算装置を通じた戦略的コンフィギュレーション, 神戸大学大学院経営学研究科博士論文, pp.1-150, 査読無.
- ③⑮ 松嶋 登 (2016) 構築主義をめぐる二つの視点, 組織科学, 94-4, p.85, 査読無.
- ③⑯ 上西 聡子 (2016) 製造業における系列取引のコントロールの仕組み: 経験的研究が導く理論的課題の提示, 九州産業大学経営学論集, 27-2, pp.1-20, 査読無.  
[http://repository.kyusan-u.ac.jp/dspace/bitstream/11178/282/1/01\\_Uenishi.pdf](http://repository.kyusan-u.ac.jp/dspace/bitstream/11178/282/1/01_Uenishi.pdf)
- ③⑰ 北田 皓嗣 (2016) 環境と会計とイノベーション, 会計, 191-1, pp.91-104, 査読無.

[学会発表](計41件)

浦野 充洋, 松嶋 登 (2019) 空間マネジメントの可能性: オフィス空間における物質性のデザインに関するパイロット調査, 経営学史学会・経営哲学学会・日本情報経営学会合同関西部会.

Kokubu, K. (2018) Rescuing “Fairness” from Accounting through the Rawlsian Perspective, Workshop 計算と経営実践のインターラクシオン-Valuation Studies へ向けて-The Interaction between Calculation and Management Practice: Towards Valuation Studies.

Nakahara, S. (2018) Examinations of Relationships between Institutional Theory and Organizational Wrongdoing, Workshop 計算と経営実践のインターラクシオン - Valuation Studies へ向けて-The Interaction between Calculation and Management Practice: Towards Valuation Studies.

Nakao, Y., Kokubu, K., Okuda, S. and Kida, M. (2018) Rhetorical Strategy for Sustainability Reporting: Text Mining Analysis of CEO statements, Workshop 計算と経営実践のインターラクシオン-Valuation Studies へ向けて-The Interaction between Calculation and Management Practice: Towards Valuation Studies.

Yoshikawa, K. and Sawabe, N. (2018) The Emotional Dimension of Accounting Practices in Decision Making: The Case of a Financial Institution in Assisting Business Turnaround, Workshop 計算と経営実践のインターラクシオン-Valuation Studies へ向けて-The Interaction between Calculation and Management Practice: Towards Valuation Studies.

Miller, P., Accounting, Organizing and Economizing (2018) Workshop 計算と経営実践のインターラクシオン-Valuation Studies へ向けて-The Interaction between Calculation and Management Practice: Towards Valuation Studies.

Tennojiya, T., Higashida, A. and Shinohara, A. (2018) Performing Business and Environment through Accounting Inscription, Workshop 計算と経営実践のインターラクシオン-Valuation Studies へ向けて-The Interaction between Calculation and Management Practice: Towards Valuation Studies.

Fujino, M., Li, Y. and Sawabe, N. (2018) Effects of Disaggregated Performance Measures among Managers with Interdependent Self-construal, Workshop 計算と経営実践のインターラクシオン-Valuation Studies へ向けて-The Interaction between Calculation and Management Practice: Towards Valuation Studies.

Sawabe, N. and Yoshikawa, K. (2018) The Emotional Dimension of Accounting Practices in Decision Making - The Case of A Financial Institution in Assisting

- Business Turnaround, 12th Interdisciplinary Perspectives on Accounting Conference.
- 吉川 晃史, 澤邊 紀生 (2018) 会計実践における目的志向性と感情性の関係 -実践理論に基づく金融機関による企業再生活動の事例研究-, 日本会計研究学会第 77 回全国大会.
- 松嶋 登, 上西 聡子 (2018) 価値評価研究の基礎概念, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター国際シンポジウム「価値評価研究への誘い: 経営学と会計学が邂逅するリサーチフロンティア」.
- 宮地 晃輔, 吉川 晃史 (2018) 日本管理会計学会 2018 年度全国大会スタディ・グループ最終報告 地域中小製造企業の管理会計・原価計算活用実態解明と経営改善への接続に関する研究, 日本管理会計学会.
- 宮地 晃輔 (2018) 亀山電機の経営改革と管理会計-バランスト・スコアカード(BSC)への取組みと課題-, 第 100 回九州大会会計リサーチ・ワークショップ.
- Nakahara, S. (2018) Taking on the Linguistic Turn in Organizational Scandal Research: Invitation to Linguistic Approach, SCOS/ACSCOS2018.
- 中原 翔 (2018) 表象のインプリケーション: リスクと情報技術の関係再考, 神戸 CSR 研究会.
- 中原 翔 (2018) リスクと情報技術のインプリケーション: C. チボラの遺稿を参照して, 日本情報経営学会第 76 回全国大会.
- Xie, J., Kokubu, K. and Shen, H. (2018) The Application and Development of Material Flow Cost Accounting (MFCA) in Taiwan and Japan, IAM2018 Winter International Conference on Innovation and Management.
- 松嶋 登 (2018) ビジネスエコシステムのイノベーション, MIISH 第 55 回例会.
- 木村 麻子, 北田 皓嗣 (2018) サステナビリティマネジメントコントロールの構造とその運用, 2017 年度日本原価計算研究学会関東部会・関西部会合同部会.
- 澤邊 紀生, 吉川 晃史 (2018) The Emotional Dimension of Accounting Practices in Decision Making-The Case of A Financial Institution in Assisting Business Turnaround, Accounting as Social and Organizational Practice Conference, Sydney, Australia.
- ① 宮地 晃輔 (2018) 地域工業団地企業の企業人材を対象とした産学官連携による原価計算スキル改善の展開, 日本会計研究学会九州部会第 101 回大会.
- ② Kitada, H., Kokubu, K., Guenther E. and Walz, M. (2017) The Effect of Environmental Management Practices on MFCA Adoption in Japan, 2017 American Accounting Association Annual Meeting.
- ③ 中尾 悠利子, 國部 克彦 (2017) 経営トップと CSR レトリック-サステナビリティ報告のテキストマイニング, 日本社会関連会計学会第 30 回全国大会.
- ④ 國部 克彦, Guenther, T., 呉 綺, 西谷 公孝, Guenther, E. and Endrikat, J. (2017) A construct Valication Study on Enviromental Management Control System: An International Perspective, 日本会計研究学会第 76 回全国大会.
- ⑤ 宮地 晃輔 (2017) 産業クラスターへの管理会計技術の適用可能性-愛媛県今治市海事クラスターを考察対象として-, 九州会計研究会第 180 回定例研究会.
- ⑥ 澤邊 紀生, 吉川 晃史 (2017) The Emotional Dimension of Accounting Practices in Decision Making - The Case of A Financial Institution in Assisting Business Turnaround, New Zealand Management Accounting Conference 2017.
- ⑦ 松嶋 登 (2017) 『現場の情報化』後記: 涌田書評へのリプライ, 日本情報経営学会第 75 回全国大会.
- ⑧ 松嶋 登 (2017) 放射光を利用した観察技術の変化と科学技術イノベーション: 住友ゴムのエコタイヤ開発, 組織学会 2018 年度年次大会.
- ⑨ 松嶋 登 (2017) イノベーション・エコシステムのデザイン, 現代経営学研究所第 95 回ワークショップ.
- ⑩ 上西 聡子 (2017) 計測機器による企業間取引の再編, 経営哲学学会第 34 回全国大会.
- ⑪ 上西 聡子 (2017) 町工場の計算装置, 日本経営学会第 91 回大会.
- ⑫ 宮地 晃輔 (2017) 造船ビジネス・エコシステムの類型と組織生存能力の獲得, 進化経済学会北海道・東北部会.
- ⑬ 宮地 晃輔 (2016) 日本の造船企業における ESG 情報開示フレームワークの検討, 日本企業経営学会創立 20 周年記念広島大会第 52 回研究部会.
- ⑭ 澤邊 紀生 (2016) Clinical Accounting Research/Practices in Japanese SMEs, New Directions in Management Accounting Research Symposium.
- ⑮ 澤邊 紀生 (2016) 中小企業における管理会計の可能性, 中小企業会計学会.
- ⑯ 松嶋 登 (2016) 制度ロジックの組織化と制度としての組織: 『制度的企業家』後記, 日本経営学会第 90 回大会.
- ⑰ 北田 皓嗣 (2016) MFCA の利用に対する環境マネジメントに関する組織能力の影響, 日本会計研究学会.
- ⑱ Kokubu, K. (2016) Legitimacy in the field of sustainable businesses: Determinants of sustainability reporting, the 8th Asia-Pacific Interdisciplinary Research in Accounting

Conference.

- ③⑨ Higashida, A. and Kitada, H. (2016) Information Flow of Environmental Management Accounting and its Effect on Environmental Management Capabilities, the 8th Asia-Pacific Interdisciplinary Research in Accounting Conference.
- ④⑩ Kitada, H. and Kokubu, K. (2016) The effect of environmental management practices on MFCAs adoption in Japan, the 8th Asia-Pacific Interdisciplinary Research in Accounting Conference.
- ④⑪ 松嶋 登 (2016) 経営学における物質性概念の行方: 社会構成主義の陥穽を超えて, 経営学史学会第24回全国大会.

〔図書〕(計 4件)

服部 泰宏, 矢寺 顕行 (2018) 日本企業の採用革新, 中央経済社, 271pp.  
國部 克彦, 中島 道靖 (2018) マテリアルフローコスト会計の理論と実践, 同文館出版, 320pp.  
國部 克彦 (2017) アカウナビリティから経営倫理へ, 有斐閣, 236pp.  
國部 克彦, 澤邊 紀夫, 松嶋 登 (2017) 計算と経営実践: 経営学と会計学の邂逅, 有斐閣, 255pp.

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名, ローマ字氏名, 所属研究機関名, 局名, 職名, 研究者番号  
澤邊 紀生, SAWABE, Norio, 京都大学, 経営管理大学院, 教授, 80278481  
松嶋 登, MATSUSHIMA, Noboru, 神戸大学, 経営学研究科, 教授, 10347263  
宮地 晃輔, MIYAJI, Kousuke, 長崎県立大学, 経営学部, 教授, 60332011  
柊 紫乃, HIIRAGI, Shino, 愛知工業大学・経営学部・准教授, 10609952  
東田 明, HIGASHIDA, Akira, 名城大学, 経営学部, 教授, 50434866  
矢寺 顕行, YATERA, Akiyuki, 大阪産業大学, 経営学部, 准教授, 20582521  
上西 聡子 (ホームズ聡子), UENISHI, Satoko, 近畿大学, 経営学部, 准教授, 70632842  
北田 皓嗣, KITADA, Hirotsugu, 法政大学, 経営学部, 准教授, 90633595  
吉川 晃史, YOSHIKAWA, Koji, 熊本学園大学, 専門職大学院会計専門職研究科, 准教授, 20612930  
天王寺谷 達将, TENNOJIYA, Tatsumasa, 岡山大学, 社会文化科学研究科, 講師, 60709773  
中原 翔, NAKAHARA, Sho, 大阪産業大学, 経営学部, 講師, 50780681

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名, ローマ字氏名  
ピーター・ミラー, Peter Miller (London School of Economics and Political Science, 教授)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。